

UCDA

# アワード2011を年明けに実施へ 損保帳票と生保ウェブサイトも評価

一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(福田泰弘理事長、以下UCDA)は10月14日に理事会を開催し、年明けにも「UCDAアワード2011」を開催することを決定した。

また、新たに、昨年評価した「総合通知」に加えて、生保各社のウェブサイトにある「契約者情報の確認ページ」と、損保会社の帳票の二つの部門を評価対象に加えることで準備を始めた。

評価対象を広げることについて同事務局では、「保険各社は、分かりやすさの確保とコスト削減の両立を求めていることが分かった。役割の異なるメディアを組み合わせたコミュニケーションデザイン

の必要性が高まっているため、紙メディアに加えてインターネットサービスも対象に考えた。また、対象業界を広げてほしいという要請が数多くあり、損保会社も対象として準備を進めている」と

話している。

前回の「UCDAアワード2010」では、生保各社が年一度、すべての契約者に対して送付する「総合通知」をデザインの視点から審査。生保21社が帳票を提供し、評価の結果、大同生命が初代アワードとなった。理事会で、福田理事長は「前回のアワードは、生保各社と協会会社、賛同していただ

た方々の協力で実現することができた。生保会社からも『ぜひ継続して開催してほしい』と、要望をいただいた。次回のアワードでは、さらに多くの方々の役に立つことで、UCDAの使命を果たしていきたい」と述べた。同事務局では今後、11月中には実施要綱を固め、発表する予定としている。